

《優秀業績賞》

御堂筋完成 80 周年記念事業

大阪市建設局道路部道路課

1. はじめに

御堂筋は、本市の第一次都市計画事業の中心プロジェクトとして、当時幅員 6m の道路を拡幅し、梅田から難波を結ぶ幅員 44m の大幹線道路として昭和 12 年 5 月 11 日に完成し、平成 29 年に完成後 80 周年を迎えた。この記念すべき年を契機として、市民とともに御堂筋を築きあげてきた歴史的意義を再認識するとともに、御堂筋の将来を考え、記念の年を祝うことを目的に御堂筋完成 80 周年記念事業を実施した。本記念事業では、市民とともに「みち」から未来を考えることをコンセプトに、これまで御堂筋が果たしてきた役割・功績を振り返るとともに、御堂筋を取り巻く現状や進行中の取り組みを踏まえ、人中心のみちへと空間再編をめざす今後の御堂筋のあり方や、民間と連携したまちづくりのあり方等を議論することとしている。



写真-1 現状の御堂筋

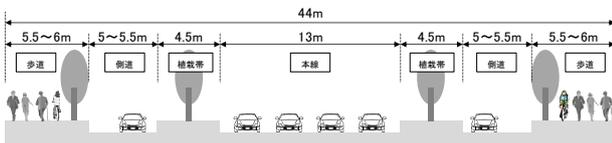


図-1 御堂筋の断面構成

2. 事業内容

本記念事業では、人中心のみちへと空間再編をめざす今後の御堂筋のあり方や、民間と連携したまちづくりのあり方を議論していくため、シンポジウムやワークショップを通して、市民の意見を幅広く取り入れながら、市民とともに御堂筋の将来像について考え、新たな公民連携の仕組みづくりを見据えた「御堂筋将来ビジョン」を策定することとしている。

以降、主な事業についての事業概要を紹介する。

(1) シンポジウム

本記念事業のメインイベントとして、御堂筋が完成した 5 月 11 日の春の企画をはじめとして、夏・秋の企画と計 3 回実施した。

春の企画においては、有識者による基調講演を実

施したほか、本市と同様にメインストリートを持つ近隣政令都市である京都市、神戸市の市長を招き、「歩いて楽しめるまちへ！」をテーマに、メインストリートの活性化の取り組みやこれからのまちづくりに関するパネルディスカッションを実施した。その中で、「世界最新モデルとなる人中心のストリート」に変えていくことが御堂筋の目指すべき



写真-2 春のシンポジウム

将来像という、御堂筋における将来の展望が示された。

また、夏・秋の企画においては、多様な分野の有識者を招き、パネルディスカッション等を通じて、道路空間の使い方など多様な視点から様々な意見をいただいた。

(2) ワークショップ

ワークショップにおいては、学識経験者、民間団体、市民の方など様々な方々にメンバーとなっただき、御堂筋が備えている資質をあらゆる角度から見つめなおし、それぞれの視点から今後の御堂筋のあり方を考えていくため、「人中心の道路づくり」、「道路における公民連携」、「安全で楽しい自転車利用」、「地下空間の利活用」、「世界に誇るイチョウ並木の育成」、「水の都・大阪」の 6 つのテーマを設定し、意見交換会や座談会形式等で今後の御堂筋のあり方について議論した。

(3) 社会実験

御堂筋の将来ビジョン策定にあたっては、上述のシンポジウムやワークショップで幅広く市民の方々の意見を取り入れるほか、将来ビジョンの一部を現地で可視化する取り組みとして、以下の社会実験を実施した。

a) モデル整備区間における賑わい創出社会実験

本社会実験は、千日前通以南で既にモデル整備として側道を歩行者空間化した区間において、整備に

より拡張された歩行者・自転車通行空間を活用し、さらに魅力ある空間としての活用の可能性を検証することを目的に実施した。

この社会実験では「ゆっくりすごせるお気に入りの御堂筋へ」をテーマに、「みんなが楽しめる上質なにぎわいづくり」や「歩行者・自転車にやさしいストリート」をめざし、キッチンカー、マーケットなどの賑わい創出に向けた取組みを行うとともに、自転車通行空間を現状よりせばめ、さらに歩道を広くとることで、ベンチやテーブル、プランター等を設置し、ゆったり過ごせる滞在空間を創出するなど、これまでにない新たな取組みを実施した。



写真-3 社会実験実施状況

b) (仮称) 御堂筋パークレット社会実験

御堂筋の将来的な整備として想定される歩道幅を見据え、拡張された空間における通行、滞留、賑わいといった道路空間配分のあり方や利活用形態のあり方を検証することを目的に、パークレットと称される休憩施設を淀屋橋 odona 前の歩道及び一部車道に張り出して設置した。11月20日に供用開始して以降、概ね半年間設置するなかで、「休憩・滞留施設の必要性」や、壁面後退部とパークレット相互の空間を活用したにぎわい創出など、「にぎわいと憩い空間の創出方法」等に関する検証を行った。

パークレットの利用形態としては、「休憩」が約7割と多く、その他「待ち合わせ」や「スマホ利用」、「昼食」といった様々な形で利用されていた。

利用者アンケートにおいては、約9割の方から「落ち着く空間」「安心な空間」であるといった意見をいただき、高い評価が得られた。また、ほぼすべての利用者から「また利用したいと思う」との回答が得られており、御堂筋沿道における休憩施設の重要性が明らかになった。



写真-4 社会実験実施状況

(4) 将来ビジョンの策定

シンポジウムをはじめ、ワークショップや社会実験等を通じて、車中心から人中心のみちへと空

間再編をめざす今後の御堂筋のあり方や、公民連携したまちづくりのあり方について議論してきた内容をふまえ、御堂筋完成 80 周年記念事業推進委員会として、御堂筋の将来像を示した御堂筋将来ビジョンをとりまとめた。

将来ビジョンの実現にあたり、まずは側道閉鎖した際における交通渋滞や荷捌き等、周辺地域に与える影響などを社会実験等により慎重に検証のうえ、側道の歩行者空間化(図-2)をすすめ、段階的に人中心の空間を広げていくこととしている。



図-2 側道歩行者空間化のイメージ

その上で、最終的には、御堂筋完成 100 周年をターゲットイヤーとして、人中心、フルモール化(図-3)をめざすこととし、実現に向けては、今後も引き続き、御堂筋を通行していた車両が周辺道路へ迂回することに伴う渋滞等の交通影響や、緊急車両等の自動車アクセス動線の確保といった交通上の課題や、公民連携による持続可能な仕組みづくり、沿道建物の誘導など空間のあり方、にぎわいづくりの課題等について、検討と実践を推進していくことが確認された。



図-3 フルモール化のイメージ

3. おわりに

本取組みを一過性のものに終わらせることなく、継続的・発展的な取組みへとつないでいくために、今後、御堂筋完成 80 周年記念事業推進委員会できりまとめた将来ビジョンをふまえ、パブリックコメントの上、大阪市としての御堂筋将来ビジョンを策定することとしている。